

山口県立下関西高等学校 定時制

いきいき定時 9月号

天下一第一

学校公開

何をやるにしても“最後の”という言葉が枕詞のようについてしまうのが少し寂しいところですが、下西定時最後の学校公開（授業公開）を9月13、14日に行いました。皆さんの大先輩にあたる定時制教育後援会会長の浜畑さんをはじめ、林さん、柿並さんの3名の役員の方が授業を見に来てくださり、いつもよりにぎやかで和やかな時間が過ごせました。授業後も今月下旬にある山口県定通制生活体験発表大会に出場する二田水君の発表練習まで見ていただき、激励の言葉をかけていただきました。本当にありがとうございました。



浜畑会長に説明をする田中先生

ようこそ先輩

学校公開日、初日の総合は「ようこそ先輩」というタイトルの卒業生講話を実施しました。今年度の講師は2005年卒の小倉知大（おぐらともひろ）先生と2011年卒の寺山鷹彦（てらやまたかひこ）先生でした。小倉先生からは「誠実であれば道は開ける。困ったときも誰かが助けてくれる。」「努力を努力と思わないくらい打ち込める仕事を見つけることが大切だ。」寺山先生からは「好きだと思えることをあきらめずに続けてきたら何とか稼げるようになってきた。」「世の中を生きていくのに挨拶や“ありがとう”“ごめんなさい”という当たり前の言葉がとても大切だ」という具体的で実践的なアドバイスをいただきました。本当に心から“ようこそ先輩、ありがとう先輩、さすが先輩…”というひと時でした。4年生3名は先輩の助言をしっかり噛みしめて、消化して、卒業後の人生に役立ててくださいね。



お二人の講師と後援会の皆さん



全日制の中野教頭先生にご出席いただきました。

生活体験発表大会

9月25日（土）、山口県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催されました。本校代表は二田水陽晟君、タイトルは「今、僕が僕でいられるのは…」（全文を裏面に掲載）入学から卒業を控えた今日に至るまでのたくさんの出会いや支えてくれた人達への感謝の言葉を彼の言葉で堂々と伝えてくれました。やるときはやってくれますねー、二田水君、大勢の人の前で話す緊張感を楽しんでくれましたか？



高校時代の貴重な経験として、いい思い出にしてくださいね。なお、県代表には小野田高校、渡辺葵（あおい）さんの「涙」が選ばれました。全国大会での健闘を願っています。

10月の主な予定

- 11（月）～15（金）定体連部活動週間（3、4限が部活動になります。）、15（金）考查時間割発表、16（土）県定通大会（山口高校、維新大晃アリーナ、山口リフレッシュパーク）
- 18（月）振替休日、22（金）～28（木）中間考査（月）、
- 29（月）総合的な学習の時間（燈影原稿作成）

今、僕が僕でいられるのは…

下関西高等学校 第四学年 一田水 陽晟

僕が下関西高校定時制を受験すると決めたのはまわりのほとんどが進学先を決めていた三月半ばのことだった。高校受験を前にピリピリする教室の空気、色々な情報が飛び回る中、僕は何も考えずただ遊んでいた。どこかの高校には引つかかるだろうと安易に考えていた。というより、何も考えていなかったのかもしれない。大して頭がいいわけではなく、むしろ下から数えた方が早い成績。推薦入試なんてとんでもない。当然そんな僕を周りの友達や母は心配してくれて。その優しさに全く答えようともせず、ここならなんとかと進められた全日制の学校を受け、そして落ちた。前日まで全く勉強もせず、遊んでいたのだから当然の結果だと受け入れることはできたが、その後どうするかを話し合うために母と僕は中学校に向かった。二次試験をどこにするか話し合っている間も僕は入学できればどこでもいいやと思っていた。でもその時見せてもらったサイトの一つが僕の目に留まった。それが今在学している下関西高校定時制のホームページだった。いくつかの高校のサイトの中で、生徒たちが本当に楽しそうにしているように見えた。進学先に対してなにも興味がなかった僕にとって初めて、「ここいいかも」という感情が芽生えた、まさに運命の瞬間だった。後日面接練習を何度かやってもらい、二次試験に臨み、そして、合格できた。今思えば充実した四年間の始まり、結果的に自分が今年度で閉課程となる学校の最後の卒業生となることを思えば、滑り込みセーフといったところだ。下西定時のサイトを見てくれた担任の先生にはただただ感謝あるのみ。入学後、一次で受けたクラスメイトからは「あれ一次いなかったよな？」とたまにからかわれたのも仲良くなるきっかけとなった。最後の卒業生となるまで残り数か月となった今、下西定時に入学できて良かったと心から思う。たればを言っても仕方がないが、僕という人間は全日制では正直三年間もたなかったかもしれない。下西定時こそ僕の人生を上向きにさせるきっかけをくれた。これからそう思う理由を論理的に分析したい。

一つ目はやはり勉強だ。勉強は嫌いではなくむしろわかりたいという気持ちは強いほうだと思うが、全日制の授業スピードだについて行けなかったと思う。その点定時制は少人数でゆっくりと、僕にも理解できるように進めてくれるので何とかついていくことができた。二つ目は友達付き合いだ。自分で言うのもなんだがこう見えて結構フレンドリーで初対面でもすぐに色んな人に話しかけ、友達になる。それは僕の長所でもあるのだが、いる人すべてに話しかけないと自分の中の平等博愛精神が許さなない。全日制の学年百人、二百人の中では脳内オーバーフローを起こしていたと思う。もしかしたら全員に話しかけなきゃという強迫観念に押しつぶされ、不登校になっていたかもしれない。定時制の学校全体で二十人というサイズが僕には合っていた。

三つ目は部活動。中学校で始めたバドミントンを、高校でもやることにした。県内の定時制高校では経験者は多くなく、定通制の県大会では楽に進めるだろうと思っていた。だが実際には一年生の時の大会で三位。思うほど甘くはなかった。全国大会には補欠として参加した。次はレギュラーとして出たいと真剣に練習したがその後二年間は同じ相手に負け続け、最終学年の今年、強い選手が卒業して減ったおかげかやっと二位になり、レギュラーとして全国大会に出場できた。結果は団体一回戦、個人戦は二回戦で負けてしまったが、四年越しの目標をようやく達成でき、しかも、ベストを尽くした結果、全国で一勝できたことには満足している。こんな達成感を味わえたのも定時制だからだ。全日制の大会だと僕より強い人なんてゴロゴロいて、全国大会どころか県大会で一回戦を突破できるかどうか微妙なところだ。

以上、僕の人生をモノクロからフルカラーに変えてくれた下西定時についての分析だが、実は夜間定時制には+αのメリットがある。昼間働けるといふことである。次にこの+αのメリットについて述べたい。今僕は誰もが知っている外食チェーンでパートとして働いている。覚えることは多く、最初は何回も同じミスをして怒られた。三年続けた結果、ミスがなくなったわけではないが、大事にいたらぬよう体が勝手に動いてセルフフォローできるようになった。ごまかすのがうまくなっただけかもしれない。でもミスの原因と対策をしつかり考えて動くようになったのは事実だ。常に完璧な仕事を目指すポジティブな人間になった。見捨てずに粘り強く教えてくれ、冗談を言って笑わせてくれる上司や仲間のいる今の仕事にはとても愛着がある。この職場に巡り合えなかったら仕事での人付き合いは苦手で、仕事そのものを頑張る気持ちも持てない、ただの根性なしになっていたかもしれない。

最後に僕がこの仕事を始めた頃のとっておきのエピソードを紹介したい。朝からのシフトだったその日、寝坊をして一時間以上遅刻をした時の話だ。呼ばれた声ではつと目を覚ますとそこには職場の人が…。そのまま拉致されるように車に乗せられ、職場に連れていかれたのだが、説教されるわけでもなく、着くまでの気まずい十数分間の沈黙は今でも忘れられない。というのも今となってはその気まずい沈黙がそれまでの自分の甘さとお金を稼ぐ厳しさと大変さを教えてくれたと思えるからだ。

今年で閉課程となる下西定時制最後の生徒としていられるのも残すところあと数か月、クラスメイト、先生、職場の人、その一人一人が僕にとってかけがえのない人たちで、大切な思い出のワンピースだ。下西定時に入学して経験した様々な出来事の一つ一つ、さらに言うところ一秒一秒が僕という人間を形作ってくれた。今、僕が僕でいられるのは下西定時に入ってから出会えた、人、こと、もの、すべてのおかげなのだ。そうやって受けてきた恩をこれからは社会にお返しできるように自分の人生を歩んでいきたい。最後に言わせてください。僕を今の僕にしてくれたのが母校、下関西高校定時制よ！永遠なれ！